

可茂会後援会報

第26号

2018.12.1

発行

社会福祉法人
可茂会後援会
可児市瀬田1648-9
発行者 加藤 政博
TEL 0574-64-3366

新しい時代に向けて

可茂会後援会会長 加藤 政博



後援会員の皆様には、日頃からご支援ご協力を頂き心よりお礼申し上げます。

今年は、平昌冬季オリンピック・パラリンピックの日本選手の活躍で始まり多に勇気づけられました。

しかし、一方では気候変動による災害の発生、地震、最高気温40度を超える猛暑などによる自然災害等が多発し、災害対策、健康管理等の強化が叫ばれた一年でもあったと思います。

可茂学園でも、防災訓練はもとより建物や設備の安全確認、修繕等の課題対策を講ずることも、中長期的な視点から施設の移転も含めた防災対策が検討されていると聞いています。

後援会としては、皆様から頂いている会費の中から、施設整備金として毎年積み立てを実施して来

ているところであり、29年度末で1千70万円程になります。この積立金は、今後学園の環境整備などの為に有効に活用を図って行きたいと考えており、引き続き皆様方のご理解とご協力を宜しくお願いしたいと思います。

さて、来年5月には新元号となり、平成の時代も終わりを告げようとしています。可茂学園は、平成3年4月利用定員50名の知的障害者支援施設として開園して以来、これまでに様々な取り組みや活動を通し、多くの関係者のご苦労があつて現在の可茂学園があるものと心から感謝をしております。

新しい時代を迎えるにあたって、この頃少し懸念される事があります。

確かに、平成になって便利な時代になりましたが、これまで培ってきた日本の良さを人間らしさが失われつつあるのではないかと言つ事です。

最近になって、世界的にもナ

シヨナリズムが台頭し、自分の国、自分達さえ良ければいいと言う風潮が世の中に蔓延している様な気がします。

障害者を取り巻く環境は、法制度整備等により改善されつつあると思いますが、これからは、その制度をどう運用し障害者が暮らしやすい差別のない社会を如何に築いて行くかであると思います。

差別のない社会の実現に向けて大切な事は、社会の人達が障害者を始めどんな人にも、やさしさや思いやりを持って接し、どれだけその人の事を理解できる「心」を持っているかに懸かっていると思います。

「美しいものを 美しいと思える
あなたの心が美しい」

(相田みつを)

可茂学園も安藤園長のもと新体制になりましたが、これまでの学園で培われた「心」を基本に、より明るく楽しい施設になることを願っています。

最後になりますが、バザー、資源回収等、今年も後援会の取り組みにご協力を頂きありがとうございました。

花と緑とからくり時計の

可茂学園

地域共生社会の実現に向けて

園長 安藤 千秋



可茂会後援会の皆さまにおかれましては、日頃より可茂学園、麦の丘、三

ツ池ホームの事業運営に格別なるご理解とご支援を賜り、衷心よりお礼申し上げます。

社会福祉では、ソーシャル・インクルージョン(社会的包容力)という考え方が注目されています。これは、「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念です。この考え方は、障がい者に限らず、高齢者、子供、生活困窮者などあらゆる分野において実施されています。

障がい者を巡る情勢については、平成24年に「障害者総合支援法」で、共生社会をめざすことが示されました。平成28年には「障害者差別解消法」「障害者雇用促進法」が施行され、不当な差別的取り扱いの禁止や合理的配慮の義務化などが定められ、地域で安心して生活できるよう法整備がされました。

国では、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置され、地域のあらゆる住民が「我が事」として参画し、人と人が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともしに創っていく社会をめざす動きが進められています。

高齢者福祉では、以前から地域包括ケアシステムの構築を目指した取り組みがされています。これは、高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように、地域内で保健・医療・介護・自治会、ボランティアなどがサポートし合うシステムです。教育現場では、障がい者等が、積極的に参加・貢献していく共生社会の実現を目指して、インクルーシブ教育が進められています。

可児市文化創造センターでは、「aia まち元氣プロジェクト」が実施されています。これは、お年寄り、子供、外国籍、障がい者など、いろいろな方が住む可児市で、文化芸術の持つ力で市民に元氣と明日の希望を届ける取り組みです。可茂学園の利用者の皆さんは、「みんなの

ディスコ」「新日本フィル交響楽団によるコンサート」に参加され、楽しめました。みんなのディスコでは、可茂学園の職員が運営スタッフに、障がい者に対する接し方のレクチャーを行い、可茂学園の専門性を活かすことができました。

障がい者施策としては、地域共生社会の実現のために、地域生活拠点整備が推進されています。これは、障がい者が安心して生活できるようにするために各種の相談支援、緊急時の短期受入れ等を提供する地域生活拠点を整備する取り組みです。現在、市町村や圏域で具体的整備に向けた協議が進められているところですが、その核になり得る機能を有する可茂学園のような障がい者支援施設に期待が寄せられています。

可児市においては、基幹相談支援センターを設置し、地域生活拠点等の面的整備が進められています。可茂学園は、セーフティネット的な役割を担うことが期待されており、現在、支援調整会議に参加し、可児市基幹相談支援センター及び可茂地域の障がい者施設と情報の共有や支援の連携を図っています。

また、社会福祉法人である可茂会は、地域共生社会の実現のために、法人として率先して地域で実践を重ね、イニシアティブをとることが期待されています。地域には、生活課

題を抱える低所得者、発達障がい者、引きこもり、不登校、独居老人、老老介護、複数の課題を抱えた家庭など多様なニーズがあります。公的な福祉サービスでは対応できない様々なニーズがあります。そのため、非課税法人の社会福祉法人には、地域における公益的な取り組みが期待されています。

様々な分野の公共的な取り組みだけではなく、自助・互助・共助・公助の力を連携させて様々な生活課題を解決していくことが求められています。可茂学園では、施設運営方針のひとつに、「施設利用者の皆さんへ自立又は社会生活を営むことができるよう必要な支援を行う」ことを掲げております。利用者の皆さんが可茂学園で生活しながら趣味や創作活動を通じて社会参加する機会を増やし、社会生活能力の向上に努めていきたいと考えています。

今後とも利用者の皆さんに可茂会可茂学園を選んでよかった、可茂学園で生活できてよかったと思っただけのような施設を目指して、サービスの充実に取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、皆様のご厚情に深く感謝するとともに、今後とも、当法人可茂会へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

手をつなぐ育成会 東海北陸大会三重大会に参加して

道家 みち子

10月27日手をつなぐ育成会東海北陸大会三重大会第6分科会「おやのこうれいか」に参加しました。親亡き後を考えた時に想定される不安とはどのようなことがあるかについての話がありました。

本人が暮らすためのお金はいくらいるのか、本人が生活する場の確保はどうしたらいいのか、本人が安心して暮らせる地域、障がいのある人もない人もお互い理解尊重して嫌な思いをせず気持ちよく暮らすことができる地域の実現ができること。これらの話を聞かせて頂いたとき、親はどんどん高齢化していく子供や兄弟等の障がい者もどんどん高齢化していく、お金はどうなるんだろう、いくらいるのかな、本人が暮らせる所は、ちゃんとあるのかな等、不安がこみ上げてきました。将来に向けたお金への対応等には、保険や貯金等の話もありました。

そんな話を聞いていて、私は今本人にそれまでのことができていいのか、今から少しずつきちんとしてやらないといけないのではないかと思いはじめました。

成年後見制度を利用して見える方は多いのですが、一度利用すると途中でやめることができないという話もあり、私はまだ利用していませんが、もし今私に何かあったらどうしたらいいのかという不安も生まれました。

そのためには、日常生活自立支援事業の利用や遺言書の作成（遺言の中で遺言執行者という人を決めておけば相続人の代わりに遺言を実現するための手続きをやってもらえる）や信託制度の利用、任意後見制度の利用等聞かせていただいているうちに今からしっかりと利用すれば障害者も安心した生活が持てるのではないかと少し安心しました。

そんな中NPO法人ぽこあ・ぽこの副理事長さんの話された自分の子供二人が障害者、一人の子供は健常者で、将来のことを話した時、健常者の子供さんが「どうして僕だけが二人のことを見なくちゃいけないの。」という言葉にショックを受けたという話がありました。兄弟に迷惑は掛けられないと施設を立ち上げ、今そこで健常者の子供さんは二人の兄弟と一緒にに仕事をしているということも聞き、将来の子供さんたちのために頑張ってみえる姿を拝見させていただき、素晴らしい方だなと思いました。

私にそんな力はあるのかなという不安も生まれました。でも何かしてやらないといけないなと思いました。

東海北陸大会での話は、将来のためには聞いていて良かったなという思いが強いです。

こんな私を参加させていただいた学園の方や役員さんには大変感謝しています。参加して大変良かったです。



資源回収報告

資源回収は皆様のご協力により順調に売り上げを伸ばすことができています。

平成30年12月1日現在

■ 資源回収売上実績

実施日	平成29年 11月20日	平成30年 1月24日	3月22日	5月16日	7月19日	10月2日	合計
売 上	9,020	8,610	6,320	6,840	8,330	8,650	47,770
可児市 奨励金	2,700			1,860	1,640	2,160	8,360
合 計	11,720	8,610	6,320	8,700	9,970	10,810	56,130

【回収品目】 アルミ缶、段ボール、新聞紙、雑誌
※スチール缶、ペットボトル、ビンは回収しておりません。

施設見学報告

鈴木美由紀

7月27日恵那市にある「恵那たんぽ作業所」への施設見学に参加しました。開所から30年が経過し、現在は230名の利用者さんが生活をされています。理事長の小板さんより説明を受け、施設内を案内していただきました。広い敷地内に色々な工程があり、作業所ではなく企業のイメージが強く感じられました。一般社会の企業に負けない規模の設備の中でシタケや木製ボールペン・ペレット等が作られています。

「働く事は生きること」と大きな目標・理念があり、働く場を得て賃金をもらいお金の使い方を学ぶ。人との付き合い方・仕事に向き合う力・我慢する力を学び、生活力を付けることを働きかけ自分でできることを増やす活動を推進されています。

部屋に鍵を掛けない・食堂の席を決めない・ご飯は自分でよそつなど・・・福祉とは育てること、いいわいいわでは成長しないと説明されました。社会で生活するためには勇気をもって突き放さないと成長しません。ただ今の自分では難しいと感じました。何を求めているかを先に察知してしまい手を出して

しまいます。先のことを考えるとそれではないかもしれませんが。ただ今は日々の生活を元気で明るく安心して一日一日過ごすことが保護者の共通の望みと改めて思いました。

訪問当日は月に一度の特売日であり、たんぽさんの施設の一つ「くりくりの里」で買い物・食事を楽しんで見えました。働く意欲にも繋がりお金の勉強になっているようです。これから障害を持つている人が、安心して働ける、安心して暮らしていける環境が整い、施設が増えていくことを願っております。

可児市健康フェアに参加して

畑尻 都

気持ちの良い秋晴れ、十月十四日に健康フェアがアールで開催されました。前日は皆さんから頂いたバザー用品の値札付けから始まり、当日の対面販売です。品物を並べる前から待つて品定めをしてみえるお客様もいたりして、皆様から頂いたバザー用品が次から次へと売れて大盛況でした。途中、何の人だかりかと見たら、麦の丘のパンの販売でした。大変人気があり嬉しくなりました。当日はどうなるのかと不安もありましたが、役



員、職員の皆様のテキパキした段取りや、和やかな雰囲気の中で、安心して参加することができました。ありがとうございました。バザー用品を提供して下さった皆様ありがとうございました。役員、職員その他、皆様のご協力により無事に終えることができたこと、感謝いたします。

親睦旅行

親睦旅行（浜松方面） に参加して

荻山百合子

十月二十日、親睦旅行で浜松方面へ行ってきました。前日まで雨が降っていて、心配しましたが、当日はスッキリ雨も上がり行楽日和になりました。

バスの中もゆったり座れてスタートしました。スムーズに浜松に着き、見学する浜松動物園に入りました。

お年寄りや足の悪い人たちには、少しづたいより下りのコースでしたが、ミヤキャッ



ト、ホワイトタイガーなどいろいろな動物や鳥を見ていると、心が癒されもつと長く動物園に居たかったです。昼食はロケーション抜群のグランドホテルにて魚料理をいただきました。帰りはうなぎパイやラグーナテンボスに寄り、おみやげを買い無事学園に帰り着き妹も喜んでいました。

親睦旅行（信州方面） に参加して

栗畑 澄子

年に一度の大型観光バスで行く親睦旅行、秋晴れの中、白いバスに乗って紅葉が美しい中央道を走りました。バスの中はカラオケで盛り上がっていました。松川を通る頃、一面赤いリンゴが見えてきました。ジュースの試飲では、しぼりたてを何種類か飲み比べをしました。次は駒ヶ根の食事会場へ行きました。だれもが楽しみにしていた信州牛のすき焼きです。お肉も柔らかく割り下の味も良く、盛りだくさんでお腹いっぱいになりました。満足でした。食後はりんご狩りです。真っ赤に実ったリンゴが皆さんを待っていてくれました。どれも美味しそうです。だれかが皮をむいたリンゴをみんなで分け合っていました。リンゴは歯切れが良く、甘くてひと味ちがうのを感じました。一人一個のお土産を頂けるのですが、赤いのにしようか、黄色いのにし

ようか、子供と迷いながらこれが一番と思うものを選んで、家族に持って帰りました。このリンゴ園は就労継続支援B型で運営されており、障がいのある人たちがお客様の案内をしたり、切ったリンゴを置くトレイを渡したり、たくさんリンゴの皮を片付けたり、慣れた手つきでテキパキ作業されていたのが印象的でした。標高の高い所なのでこの日は風が冷たく感じました。伊那谷のすばらしい景色を眺めながらバスの中は、ほんのり甘い香りに包まれて楽しかった一日が終わりでした。この楽しいひと時を計画して、お世話して下さった職員の皆様のお心遣いに感謝します。有難うございました。



収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 費	1,570,000	1,480,000	-90,000	
特 別 会 員	90,000	90,000	0	30,000円×3口
正 会 員	1,200,000	1,130,000	-70,000	10,000円×113口
育 成 会 員	180,000	183,000	3,000	3,000円×61口
賛 助 会 員	100,000	77,000	-23,000	1,000円×77口
2. 雑 収 入	101,000	114,721	13,721	バザーの売上等、資源回収、補助金 等
3. 前期繰越金	131,633	131,633	0	
合 計	1,802,633	1,726,354	-76,279	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 議 費	20,000	15,271	-4,729	弁当代等
2. 事 務 費	610,000	546,316	-63,684	
通 信 費	10,000	3,220	-6,780	切手代
印刷製本費	100,000	88,560	-11,440	会報印刷代
事務消耗品費	20,000	4,536	-15,464	コピー用紙代、封筒
施設設備費	430,000	400,000	-30,000	草刈り(業者委託) 三ツ池ホーム含む
雑 費	50,000	50,000	0	春祭り協賛金
3. 振込手数料	3,000	1,130	-1,870	郵便振替手数料
4. 積 立 金	1,169,633	1,000,000	-169,633	施設整備積立金
5. 次期繰越金	131,633	163,637	32,004	
合 計	1,802,633	1,726,354	-76,279	

収入総額 1,726,354円

支出総額 1,562,717円

収支差額 163,637円(次期繰越)

平成二十九年度
社会福祉法人可茂会後援会決算書

監査報告書

平成29年度の可茂会後援会決算について監査の結果、その収支は正確に処理され、また証拠書類も整備されています。
よって適正であることを認め報告いたします。

平成30年4月2日

監事 前島宗直

社会福祉法人可茂会後援会
会長 加藤 政博 殿

梅田孝子

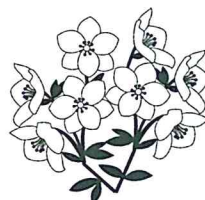
特別会計報告書 施設設備積立金

(単位：円)

	収入	支出	残高
マイクロバス寄附(24.10.10)		6,900,000	3,100,000
マイクロバスのスタッドレスタイヤ寄附(24.11.30)		288,000	2,812,000
平成25年度積立金(郵便局定額預金)	1,400,000		6,702,000
平成26年度積立金(郵便局定額預金)	1,000,000		7,702,000
平成27年度積立金(郵便局定額預金)	1,000,000		8,702,000
平成28年度積立金(郵便局定額預金)	1,000,000		9,702,000
平成29年度積立金(郵便局定額預金)	1,000,000		10,702,000

監事 理事 理事 理事 副会長
理事 理事 理事 理事 理事

梅田 前島 柴畑 道家 酒向 加藤 安江 加藤
實美 宗直 喜都 義昭 清治 敏剛 政博



平成三十年度
可茂会後援会役員

可茂会後援会にご加入を

年間会費

特別会員 一 三万円
正会員 一 一万円
育成会員 一 三千円
賛助会員 一 一千円

可茂学園施設整備資金確保のために、新会員の
ご加入をお勧めください。

可茂会後援会事務局
TEL 六四・三三六六

可児市文化創造センターで、
10月14日(日)に開催されました『健康フェア可児』で
バザーを行いました。
売上金は52,630円でした。
皆様のご協力ありがとうございました。

平成三十年度

後援会員名簿

＝敬称略＝

特別会員

（株）吉田整備（株）

（株）三宅設計

広和自動車（株）

（株）濃飛葬祭

エース薬局広見店

東3冷凍機（株）

正会員

（三〇）長瀬 邦夫 加藤 政博

（二〇）ミスノ観光（株）

村瀬 正樹 山本 孝盛

前島 宗直 宮川 春子

（二〇）（有）フエニックス

（有）中部フロンパン瓦斯商会

小境電気工事

（株）新興設備

可児市建設業協同組合

ヘアサロン鈴木

渡辺須磨子 花井 一彦

高木 武典 堀井 幸一

菅井 省二 梅田 實美

藤村 恒行 桑畑 直喜

小島 孝三 畑尻 都

前田千賀子 加藤 敏明

山田 順子 安江 公男

後藤 邦久 亀貝 進

日比野邦彦

揖斐 好久

育成会員

（二〇）河合 政也

（二〇）桑畑 澄子

加藤あゆみ

酒向三保子

加藤 幸子

石坂 紀子

佐々美佐子

小栗 意夫

加藤 拓男

山口 智也

玉井 伸二

河合 進

酒向 清治

中西 敦子

小椋 竜也

山口 優子

高木 洋一

白川 彰美

近藤なみ子

伊藤 貞行

上田 重博

加藤美根子

宮川 蔵

安江 剛生

安藤 千秋

馬場 忠外

山内 豊子

内藤 寛子

柘植 和廣

藤田 秀子

半澤 哲男

大崎 俊昭

山内 千司

加藤 高史

竹原 利枝

白村味紀子

長瀬 洋子

渡辺 淳

日比野恭治

秋元 進

荻山百合子

中原 健二

近藤 善守

谷口 義晴

長谷川伸二

堀 智子

道家 義昭

山田十九夫

堀井 泰弘

舩中 一彦

小川 裕一

余語 潤一

斎藤 道夫

市川 尚幸

森 鉄雄

藤野 和彦

鍵谷美智代

古田 和子

吉田 健治

四之宮賢治

和下 開

千葉 進

安江 均

佐々 立夫

長谷川紀子

石原 福美

島尻 勇人

曾木登美子

小川 和則

川村 雅哉

桑畑 靖紀

玉井美世子

加藤 孝子

藤野三津子

宮川 隆

山田多美恵

伊藤 克人

池田 雄亮

瀬戸 久也

渡辺 浩英

桑畑千代美

遠藤八重子

斉藤みはる

長尾 和子

谷口 里子

奥田 智恵

堀田 泰史

塚本 幸治

伏屋 公博

賛助会員

（五〇）小島九十男

鈴木かな奈

大嶋 久興

伊藤 正和

梅田 早苗

（二〇）亀谷 正勝

小森きくよ

（二〇）河合 清子

長瀬 寿

渡辺美知夫

高瀬 良子

田中真由美

原田 征子

和田 佳成

熊谷 恵子

石原すみえ

可児 伸子

伊藤 博人

川合 哲也

加納 学

丸山 雅

矢嶋里佳子

小嶋ゆづこ

山口祐実奈

松原 裕子

永瀬 和子

飯島 明美

丸山 豊

高橋 将也

丸木 遼

藤原明日香

市橋 香奈

安田有里菜

平手 志歩

前島恵津子

伊藤 和代

塩谷 志保

和田 雄樹

原 和也

井戸 駿介

平林なつみ

永井 香帆

小倉 莉紗

中村なのは

兼子 雅代

川合圭伊子

武藤 行子

杉山 洋志

長谷川栄作

大野 率子

山田 輝世

大野起代子

酒向 陽子

井藤三千子

尾関 英治

原科 久子

石原佐喜夫

古田 敬子

脇田 純子

水野 信子

佐藤千代美

宮原 香代

泉濱 巳織

山本美智子

大前 貞子

長瀬 修一

山本 信男

向井 信

長瀬 京子

小島みどり

佐藤しずか

杉本 富夫

清水恵三子

柴田 美雪

梶浦 芳子

山田まゆみ

（平成三十年十一月末日現在）

ボランティアの皆様へ感謝

可茂学園には年間を通じて多くのボランティアの方々が来られます。中でもにここ会さんとモラロジーボランティアさんは長くご協力をしていただいております。にここ会さんは月に1回縫い物をしていただいています。利用者さんのズボンや服のほつれを直したり、壊れた服のチャックを直したり、中央ホールなどで皆さんが使う椅子のカバーを作ったりと、あらゆる要望に応じていただいています。また、モラロジーボランティアさんは年に数回施設内の掃除をしていただいています。普段は手の届かない窓ガラスを拭いたり、軒下のクモの巣や汚れを掃除していただいています。そのような姿を見るといつも就職したあの頃を思い出させてくれます。私たち職員は「人の役に立つ仕事がしたい」との熱い思いでこの障がい者福祉の仕事を選びました。継続したボランティア活動に支えられながら施設が運営されていることに感謝し、この場をお借りしてボランティアの皆様には改めて御礼申し上げます。

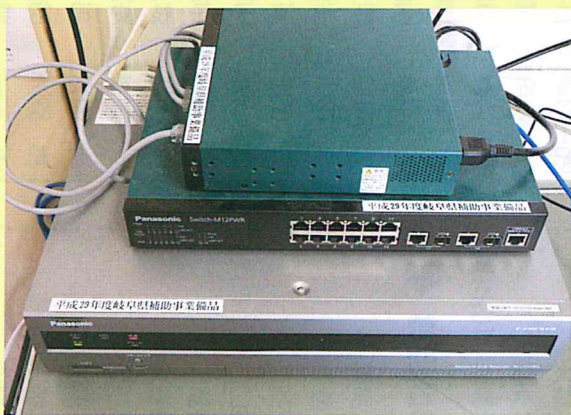


モラロジーボランティア



にここ会ボランティア

国庫補助事業完了報告



この度社会福祉施設等施設整備費国庫補助金の交付により防犯システム整備事業を実施いたしました。正門と裏門にカメラとセンサーを設置することで外部からの不審者侵入に素早く対応できるようになりました。施設を利用される皆様がより安全に生活することができるよう、一定の抑止効果を期待しております。ここに事業の完了をご報告させていただきますとともに、ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

事業名

平成29年度防犯システム整備事業

事業内容

防犯対策強化のための整備

監視カメラシステム、侵入警報センサー、
非常通報装置

設置場所

可茂学園（可児市瀬田1648-9）

三ツ池ホーム（可児市東帷子3827-6）

事業費総額 2,948,568円

補助金額 2,038,000円

完了年月日 平成30年4月12日